

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

インターネットを通じてご参加いただいておりますご家族・ご関係の皆様、本日は誠に
おめでとうございます。神戸女学院大学の教職員を代表してお祝いを申し上げます。

今年度の入学式も予定通り開催できたことを大変嬉しく思っています。新型コロナウイルス感染症の収束はなお遠く、新たな変異株の出現が続いており、予断を許さない時期がありますが、入学式を実施して新入生の皆さんに本学のキャンパスで直接会えることは大きな喜びです。

神戸女学院大学は 1875 年に創立されました。今年で 147 周年を迎える歴史があります。アメリカから来られた二人の女性宣教師イライザ・タルカットとジュリア・ダッドレーの両先生が神戸市中央区山本通で創立されましたが、学院の発展に伴う施設拡張のための広い敷地が必要となり、ここ岡田山に 1933 年に移転してきました。今から 89 年前のことです。

建物を設計したのはウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏です。このエミリー・ホワイト・スミス記念講堂を含む 12 棟のヴォーリズ建築群は国の重要文化財に指定されています。皆さんにはキャンパスがもつ魅力を十分に体感していただきたいと思います。その魅力は建物の美しさや荘厳さだけではありません。ヴォーリズには「建物それ自身が生徒の上に積極的影響を及ぼす」という設計思想がありました。「建物が教育する」という意味です。この言葉の意味することを考えながら学生生活を送ってください。

ヴォーリズの建物には細部に渡って工夫があります。ぼんやり見るだけではわかりません。じっくり見てください。見る角度を変え、さらに繰り返して何度も見ることで新しい発見があります。ここのスペースは何のためにあるのかわからないという場所も多々あります。それらについてヴォーリズは答えを残していません。その答えはあなたの想像力に委ねることなのでしょう。

新入生の皆さんには本学に慣れるためにもまずキャンパスを探索することをお勧めします。一人で回っても、誰かと回るのでも有意義な時間になるでしょう。その時間が皆さんに学ぶことの楽しさを教えてくれると思います。じっくり見ること、多角的・多面的に見ること、先入観を持たないで見ることなどで新しい気付きや発見に至ります。そうすることでさらに新たな発見への意欲も高まります。このような体験を大学で学ぶ姿勢につなげてください。

人は学ぶことで成長します。新たに得た知識や知恵が人生の困難を乗り越える力となります。また、その知識や知恵が他者を支え、助ける力にもなります。神戸女学院には「愛神愛隣」という学院永久標語があります。これは聖書の「神を愛し、隣人を愛しなさい」という掟に基づいています。ここでの「隣人」とは、自分の身近にいる友人や家族などを指しているわけではありません。隣人とは困難な状況にあるすべての人が対象になります。つまり、困っている人がいれば、相手が誰であってもその人の隣人になって助けるということです。

本学はそういう人々を世に送り出すことを使命とし、卒業生はそれぞれ自らが置かれた場所で「愛神愛隣」を体現して活躍されています。どうぞ皆さんも将来、諸先輩方のあとに続いてほしいと思います。

最後に、今、私たちはウクライナで戦火に晒されている人々の困難を知り一刻も早い停戦を願っていますが、同時にわれわれが為すべきことは事実や真実を知ろうとすることです。それが隠されてしまうことの恐ろしさは、ウクライナ侵攻を行っているロシア政府による報道規制等に見ることができます。ロシア国民の多くは事実を知られることなく加害者になってしまっているのです。一方で、西側諸国による報道等を鵜呑みにすることも避けねばなりません。自分が支持する側のみが事実だと思ってしまうことも危険です。確かな知性をもって世界で何が起きているかを知るように共に努めてまいりましょう。

先月には卒業式をこの場で行いました。学びを終えた卒業生が講堂の中央扉から新たな人生へと旅立ちました。新入生の皆さんも未来を支える充実した時間を過ごされ、やがてその日を迎えられることを願います。神様の祝福が豊かにありますよう祈り、学長のことばいたします。